「義のために苦しむ」　　2026年01月30日

最後に言います。皆思いを一つにし、同情し合い、きょうだいを愛し、憐れみ深く、謙虚でありなさい。悪をもって悪に、侮辱をもって侮辱に報いず、かえって祝福しなさい。あなたがたは祝福を受け継ぐために召されたからです。「命を愛し／善い日々を過ごしたい人は／悪から舌を／欺きの言葉から唇を守れ。悪から離れ、善を行え／平和を求め、これを追え。主の目は正しい者に注がれ／その耳は彼らの祈りに傾けられる。主の御顔は悪を行う者に向けられる。」もし、善いことに熱心であるなら、誰があなたがたに害を加えるでしょう。しかし、義のために苦しみを受けることがあっても、あなたがたは幸いです。彼らを恐れたり、心を乱したりしてはなりません。ただ、心の中でキリストを主と崇めなさい。あなたがたの抱いている希望について説明を求める人には、いつでも弁明できるよう（に）備えていなさい。それも、優しく、敬意をもって、正しい良心で、弁明しなさい。そうすれば、キリストにあるあなたがたの善い振る舞いを罵る者たちは、悪口を言ったことで恥じ入るようになります。神の御心によるのであれば、善を行って苦しむ方が、悪を行って苦しむよりはよいのです。（Ｉペトロ３：８～17）

著者は、「最後に言います。皆思いを一つに、同情し合い、きょうだいを愛し、憐れみ深く、謙虚でありなさい。悪をもって悪に、侮辱をもって侮辱に報いず、かえって祝福しなさい。あなたがたは祝福を受け継ぐために召されたからです」と勧めている。パウロは、「喜ぶ者と共に喜び、泣く者と共に泣きなさい。互いに思いを一つにし、高ぶらず、身分の低い人々と交わりなさい。自分を賢い者と思ってはなりません。誰にも悪をもって悪に報いることなく、すべての人の前で善を行うよう心がけなさい（ローマ 12:15 ～17 ）」と、イエス・キリストを信じて生きる者の新しい倫理を書いている。著者は、主イエスに倣う愛は、親しいきょうだいにだけでなく、自分に対し悪意があり、侮辱する人にも、祝福を祈る愛を勧めている。神の祝福を受け継ぐために、その愛に生きるように召されたからである。「命を愛し／善い日々を過ごしたい人は／悪から舌を／欺きの言葉から唇を守れ。悪から離れ、善を行え／平和を求め、これを追え。主の目は正しい者に注がれ／その耳は彼らの祈りに傾けられる。主の御顔は悪を行う者に向けられる。」この言葉は、詩編34編13～16節からの引用で、両者を合わせると下記のようになる。「命を愛し、喜びをもって長生きし、幸いに過ごしたいと願う者は、舌を制して、唇から偽りの言葉から遠ざけ、悪から離れ、善を行い、平和を求め、これを追い求めなさい。神は神に従う正しい人に目を注がれ、彼らの祈りと叫びに耳を傾けてくださり、悪事を働く者に顔を向けられ、その名を地上から絶たれる。善いことに熱心であるなら、誰が害を加えるでしょう。」著者は、「しかし、義のために苦しみを受けることがあっても、あなたがたは幸いです」と言う。人々を恐れたり、心を乱したりしてはならない。心の中でキリストを主と崇めなさい。あなたがたの抱いている希望について説明を求める人には、いつでも、穏やかに、敬意をもって、正しい良心で、弁明できるように備えていなさい。そうすれば、あなたがたのキリストに結ばれた善い振る舞いを罵り、悪口を言う者は恥じ入るようになる。「神の御心によるのであれば、善を行って苦しむほうが、悪を行って苦しむよりはよいのです。」著者は、主イエスの十字架の苦難を思い、敵対する者にも愛と良心をもって対しなさい、あなたがたが苦しむようなことになっても、善を行って苦しむことは幸いであると諭している。